



上北だより

平成28年12月1日

練馬区立上石神井北小学校
校長 市川 順 康

「翡翠の石」

校長 市川 順 康

日本の桜、菊、蝶（ちょう）、富士山、雉（きじ）など、代表的な日本の花、鳥、山などいろいろ紹介されていますが、日本の「国石」は何か、ご存じでしょうか？ 今年、9月24日に日本鉱物科学会は「翡翠（ひすい）」を日本の石としました。なぜ翡翠が日本の石として選ばれたか。それは、国内でも産出される、美しい石であり、古代から日本人が、装飾品や呪術、お守りのために珍重し、加工し、多くの人々に使われていたという歴史があるからだそうです。中国では宝石のことを「玉」といいますが、主に翡翠のことを指します。日本の「勾玉（まがたま）」も、翡翠で作られることがあり、お守りとして身に付けられていました。軽井沢の移動教室で、6年生が「勾玉づくり」を体験することがありますが、本物の翡翠は、見る角度、そのときの光の当たり方によっても、石の色は微妙に変わります。その深い色合いや奥深さに、古代の人たちは、何か特別なパワーを感じ取り、何か神秘的な力として認識し、思いを寄せていったのでしょうか。現代でも「パワー・ストーン」として身に付けている人も多いそうです。「忍耐、調和、飛躍」をもたらし、持つ人に大いなる叡智をもたらす…と。

ただ、鉱物学的に言ってしまえば、翡翠は、地下の深いところで何千年と熱せられ、圧縮され、地上にあらわれる「鉱石」です。薄いグリーン印象が強い翡翠ですが、ピンク、薄紫、半透明など約15種類の「色」があると言われています。この色も科学的に分析すれば、含まれているいろいろな成分により変わってくるということですし、加工のしやすい、しやすくないが分かれる「堅さ」も変わってきます。まさに「自然の結晶」なのですが、科学の発達で、鉱物によっては、例えば、ダイヤモンドは「人工的」に作ることもできるようになりました。しかし、不思議なことに、翡翠そのものを人工的に作ることは、今の科学技術をもってしてもできないそうです。

11月25・26日に、上石神井北小学校では、展覧会が開催されました。627名が何らかの形で製作に関わり、作品が展示されましたが、その完成度の高さに圧倒されます。教師も児童も、作品への思いを込め、工夫をし、展示して、たくさん見学の方の心をつかんだ展覧会でした。「翡翠」のように、地下でもまれた鉱物が、地上で宝物として大事にされるのと同じように、保護者や地域の皆様の目にも、子どもたちの「知の宝石」のように写ったのではないのでしょうか。子どもたちもまた、他の子どもの作品に感動し、学んで、自己の情操も育てていったのではないのでしょうか。大きな学校行事へのご協力、感謝を申し上げます。

12月の行事予定

1日	(木)	5時間授業	13日	(火)	個人面談/個別指導日・5時間授業
2日	(金)	5時間授業	14日	(水)	個人面談/個別指導日・5時間授業
5日	(月)	研究日・4時間授業(1の2以外)	15日	(木)	個人面談/個別指導日・5時間授業
6日	(火)	連合音楽鑑賞教室(5) 個人写真(6)	16日	(金)	5時間授業
7日	(水)	避難訓練・安全指導日 委員会活動(5時間目)	19日	(月)	個人面談/個別指導日・5時間授業
8日	(木)	カリオスタット(5)・集合写真(6)	21日	(水)	オリパラ授業
9日	(金)	社会科見学(6)	22日	(木)	第2学期終業式・5時間授業
10日	(土)	学校公開日・道徳地区公開講座	23日	(金)	天皇誕生日
12日	(月)	クラブ活動	26日	(月)	冬季休業日始～1月7日(土)終
			1月10日	(火)	第3学期始業式 5時間授業